

2016年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科、電気通信工学科、建築・デザイン学科、情報学科						
科目名	工業科教育法 I						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	前期		
必修・選択の別	教職必修						
担当者	平野 剛						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の基本的展開と指導が実践できる。</li> <li>・日本における中等工業教育の発展の概要を説明できる。</li> <li>・工業科目の年間指導計画を作成できる。</li> </ul>						
日程と内容	4/13 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法 4/20 学校教育の機能、現代の学校教育の使命 4/27 教員の研修、望ましい教師像 5/7 学校教育と教育行政 5/11 第1回模擬授業 I 5/18 第1回模擬授業 II 5/25 高等学校教育の現状と課題 6/1 工業技術教育のあゆみ 6/8 諸外国の工業技術教育の現状 6/15 工業高等学校の進路指導 6/22 第2回模擬授業 I 6/29 第2回模擬授業 II 7/6 社会に開かれた工業高等学校 7/13 高校教諭講和 7/20 復習 7/27 定期試験						
成績評価基準	定期試験	50%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	20%	計	100%			
演習	30%						
授業到達目標の達成度	到達目標の項目は概ね講義に盛り込むことが出来ていると考えている。						
反省点	模擬講義は学生の評判も良いが、座学が学校の組織運営や教育行政の話なので学生の興味を引ける内容ではなかった。しかしこの内容は避けられないので、テキストの内容に関する雑学を交えて興味を引かせるようにした。また科目履修生として現役高校教諭がいたので、現場の話などをして貰い、学生に好評だった。						
来年度の計画	受講人数にもよるが、来年度も模擬講義を2回実施したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	「授業に刺激されて興味を持ったか」と「授業に集中したか」が3.6と低かったが、残りの評価は概ね4.0以上あった。また総合評価が8.4であったため授業に対して概ね学生は満足していると思われる。						
履修登録者数	8名	定期試験 受験者数	8名	合格者数	8名	合格率	100%